

6ヶ月～12ヶ月

事故を防ごう！！

お座りができると、視野が広がり、興味の幅も広がります。動き回れるようになると、ますます目が離せないですね。歩けるようになると転びやすくなりますし、行動範囲が非常に広がります。何でも口に入れるのもこの時期からです。特に10ヶ月近くなると、小さいものを指でつまむ動作もできるようになるので、誤飲事故の危険性も断然高くなります。以下のチェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう。

- 〔転落・転倒〕 ・ お坐り、つかまり立ちの姿勢から、ひっくり返っても大丈夫な位置にいるか
 - ・ ひっくり返っても大丈夫のように、家具の角など危険な場所にクッションなどの対策をしているか
 - ・ 縁側・階段・玄関・バギーなどの段差から落下する危険はないか
- 〔交通事故〕 ・ 自動車に乗るときは、チャイルドシートを必ず、確実に装着しているか
- 〔火 傷〕 ・ テーブルなどの上のものをひっくり返す危険はないか
 - ・ 湯気の出るポットや炊飯器を1m以下の高さに置いていないか
 - ・ ストープ、アイロン、ヤカンなど熱いものを手の届かない様にしてあるか
 - ・ コンセントや電気コードはいたずらできないようにしてあるか
- 〔溺 水〕 ・ お風呂、トイレ、洗濯機など、10cm程度でも「鼻と口をふさぐだけの水でも子どもは溺れる」ということを知って、水場に近づけないようにしてあるか
- 〔誤 飲〕 ・ 小児の最大口径4cm、長さ5cmの誤飲チェッカー、誤嚥防止ルーラーに入るサイズのもの、防虫剤、殺虫剤、灰皿のタバコの吸殻(特に水に浸されたタバコの汁)、薬、化粧品、洗剤、灯油など誤飲の危険があるものを高さ1m(100cm)以下に置いていないか
 - ・ 引き出しや戸棚は簡単に開けられないようにしてあるか
 - ・ 食品以外のものを食品容器に入れていないか



誤飲は、飲んだ量、飲んだものの種類によって、対応が異なります。(水や牛乳を飲ませる、吐かせる・吐かせないなど)正しい情報を得て、迅速に対応しましょう。

中毒110番 (情報提供料:無料)一般市民専用電話

つばくばく中毒110番 **029-852-9999** (365日 9時～21時対応)

大阪中毒110番 **072-727-2499** (365日 24時間対応)

たばこ専用電話 **072-726-9922**

(365日 24時間対応、自動音声による一般向け情報提供)

夜間救急電話相談やWEBでの救急情報(子どもの救急ONLINE-QQ)もあります



夜泣き

6ヶ月くらいから夜は眠る、昼は起きているというリズムがつき始めます。その自主トレ(?)の課程として、夜泣きがあります。体調不良の区別さえつけば心配ありませんが、何とかしたいなあ...と思いますよね。大人は昼間も活動しなくてはいけなくて辛いんですね。寝る前のスマホやTVの画面の光は寝つきにくくなりますので、やめましょう。逆に、移動(おんぶなどで同じ速度でウロウロするなど)は寝つきに有効です。もう少し大きくなると、枕やタオルケット、ぬいぐるみなどの睡眠グッズで眠れる子も出てきます。夜泣きは、何ヶ月も続くものではありません。工夫しながら発達を待ちましょう。

離乳を進める

離乳とは「乳を飲みこむだけの作業から、カミカミゴックンして固形のものも食べられるようになるお口の訓練」です。お口の使い方の時期に合わせて、離乳を進めましょう。味覚の感覚、舌触り(食感)の広がりは、3～4歳頃までにゆっくり広げていけばいいので、離乳終了後でも十分時間があります。今は口の使い方の発達に注目する時期です。焦らず進めましょう。

外の世界へ

そろそろ、外の世界に興味向きが向きます。何でも触り、見て、聞いて、世界を広げ、学んでいく時期です。家族以外の人、動物、花など、危険なときやダメなときは、しっかりダメと言いましょ。そうでない場合は、手や口を出しすぎず、見守るようにしましょ。この時期からの見聞きしたりダメと言われる経験が、将来の不登校予防にもなるという研究もあります。しっかりとリアルな経験をさせてやりましょ。なお、土を触る前に、五種混合ワクチンを接種しておくかと安心ですね。

後追い・人見知り

この時期から1歳半くらいまでが最も人見知りが激しい時期です。時には、お父さんまでイヤといわれます。でも、それが順調な発達の証拠なのです。ピリピリせず、時期を待ちましょう。

自分で食べること

離乳は順調に進んでいますか？10か月を過ぎると、カミカミして食べられるようになり、自分で手を使って食べようとします。乳児用マグカップを使う、ストローで飲む、パンやおせんべいを手に持って食べるなど、自分でできるということは赤ちゃんにとって嬉しいものです。食卓で家族と並んで食べることもできるようになりますね。離乳は、子どもの口の動きや、うんちの状態を見ながら、その子にあったペースで（1歳6ヶ月くらいを完了の目安にして）進めましょう。少しも焦ることはないですからね。また、自分で食べると、散らかり、汚れます。汚しても良いように、あらかじめ、エプロン、敷物などを工夫しましょう。伝い歩きの頃からは、少し食欲が落ちたり、食欲におらが出てきたりします。今日、何をどれだけ食べたか、ということにとらわれず、1週間くらいの長い目で、ある程度の種類と量を食べていれば良いのです。無理強いしたり、ご機嫌とりしたりは必要ありません。ゆっくり、のんびり構えましょう。離乳が完了する頃から、3~4歳頃までに、味覚の感覚、舌触り（食感）を広げる（様々な味、食感を食べさせる）体験を通して、豊かな食への感覚を育てましょう（アレルギーは要注意）

発達凸凹の特性が強い子の中には、味覚、嗅覚、口の触覚などに過敏性がある子がいます。その場合は、無理強いしない方が良いでしょう。気になるようでしたら、相談機関に相談してみましょう。

